

研究・調査報告書

報告書番号	担当
554	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Effects of beer, wine, and liquor intakes on bone mineral density in older men and women. 老齢男女におけるビール、ワイン、蒸留酒摂取の骨密度への影響	
執筆者	
Tucker KL, Jugdaohsingh R, Powell JJ, Qiao N, Hannan MT, Sripanyakorn S, Cupples LA, Kiel DP.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Clin Nutr. 2009 Apr;89(4):1188-96.	
キーワード	
老齢男女、ビール、ワイン、蒸留酒、骨密度	
要旨	
<p>中程度のアルコール摂取が骨に有益な影響を与えることが報告されている。しかしながら、異なる種類のアルコール飲料摂取の影響については研究されていない。著者らの目的はトータルのアルコール摂取量または個別のアルコール飲料摂取量と骨密度 (BMD) との関係を探ることである。地域住民を対照としたフラミンガム子孫コホート研究において、結果を潜在的交絡因子で調整し、1182 名の男性と 1289 名の閉経後の女性、248 名の閉経前の女性でアルコール摂取量と臀部 3 カ所と腰椎における BMD を調べた (年齢:29-86 歳)。この結果、男性は主にビール、女性は主にワインを飲んでいて、非飲酒者と比べ、トータルのアルコールまたはビールを 1 日あたり 1-2 杯摂取する男性では臀部の BMD がより高く (3.4-4.56%)、トータルのアルコールまたはワインを 1 日あたり 2 杯以上摂取する閉経後の女性で臀部の BMD が有意に高かった (5.0-8.3%)。また、蒸留酒を 1 日あたり 1-2 杯摂取する男性より、蒸留酒を 1 日あたり 2 杯以上摂取する男性では臀部と腰椎の BMD が有意に低かった (3.0-5.2%)。ケイ素摂取で調整後、ビールの効果については全グループ間での違いが有意でなくなったが、他のアルコール種で見られた違いについては有意のままであった。閉経前の女性については検出力が低く、相関は有意ではなかった。以上より、中程度のアルコール摂取は男性と閉経後の女性において骨に有益である可能性が示唆された。しかしながら、男性で蒸留酒を多く摂取 (1 日あたり 2 杯以上) すると有意に BMD が低下した。蒸留酒に比べ、ビールやワインと BMD の間の相関がより強い傾向にあることは、エタノールよりも他の成分が骨の健康に貢献していることを示唆している。ケイ素がビールと BMD の相関を仲介していると考えられたが、ワインや蒸留酒と BMD の相関にはケイ素は関与していないと考えられた。その他の成分についてはさらに研究が必要である。</p>	